2024年（令和6年）
3月9日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3 桂ビル2階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額5,940円（税込）
電子版購読料　月額4,400円（税込）

人と環境の未来を創造する
大昭建設株式会社
代表取締役　細谷武史
本　社／〒301-0822　茨城県龍ケ崎市1686番地
TEL 0297-64-1511　FAX 0297-64-1516
http//www.daisho-c.co.jp

茨城の公共・公益事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県土木部総括技監・部長編⑤

国道354号と霞ヶ浦大橋
渡邊 一夫 氏 × 豊島 信拓 氏
元県土木部長　　元県道路公社理事兼顧問

いばらきの公共事業を紐解く

人生の始まりは有料道路

昭和47年2月、当時大学近くに下宿していた私のもとへ、父親より速達が届きました。「茨城県道路公社という、県の外郭団体が社員を募集しているので、試験を受けろ」というのです。そして4月1日に辞令交付、旧県庁舎内の本社調査課技師として着任。永きにわたり有料道路に関わる人生が始まりました。

私の初めての仕事は「表筑波スカイライン」の建設大臣許可申請書作成でした。県庁から出向された先輩職員にいろいろ教えていただき、今までドライブで利用するだけだった道路の建設に関わることに胸を膨らませ、責任を感じる毎日を過ごしたことが思い出されます。今回は、当時のことを思い起こしながら、道路公社が携わったいくつかの事例を紹介させていただきます。

まず水郷有料道路は、県南方面をはじめ鹿島臨海工業地帯と首都圏を結ぶ9・3㎞の産業道路として計画され、昭和46年に建設大臣許可が下り、工事が開始されました。主な構造物である鰐川橋は、北浦から外波逆浦に流れ、利根川に通ずる河川に架けられました。ここは霞ヶ浦区域の軟弱な地層があり、支持層が深いため、ニューマチックケーソン工法をとりました。上部工は連続箱桁で鋼床版を採用。下部工への死荷重の軽減をはかりました。

早急な開通が求められるなか、監督担当者は、公共事業とは異なる大規模工事と発注方式に戸惑いながらも力を合わせ、ワンチームで昭和49年4月に工事を完了させました。その後、東関東自動車道が潮来で接続。有料道路は4車線に拡幅され、平成21年12月に無料解放となり、鹿行地区の重要な幹線道路となっています。いつかは私も、このように大きな現場の現場監督になれるよう頑張らねばと、気持ちが高揚したのを思い出します。

続いて霞ヶ浦大橋についてお話します。霞ヶ浦に架かる初めての橋として、出島・玉造間に架かる101５mの長大橋で計画されました。昭和58年に事業許可を受け、工事が開始。下部工は鋼管矢板井筒12基とPCウェル15基、上部工はRC床版鋼連続版桁（3径間連続と4径間連続）を採用し、管理事務所・料金所・道路施設・舗装まで、工事期間3年で開通式を迎えることが出来ました。

下部工事の工期短縮が早期完成に繋がることから、仮さん橋の設置、台船等の使用、漁業船舶の往来等、いろいろな協議調整がありました。開通後は時間短縮の利便性が良く、予定交通量を大幅に上回ったことから、料金徴収期間を約10年短縮できました。現場の皆さんの苦労の賜と、大変感謝いたしました。

次に新大利根橋ですが、取手・柏間の6号国道大利根橋の慢性的な交通渋滞を解消するため、総延長2・4㎞で計画されました。利根川部分はニューマチックケーソン基礎を採用、上部工は鋼連続箱桁RC床版橋を採用しました。国道294号から有料接続部までの公共施工分3㎞を同時供用するため、道路公社が受託施工したのです。監督員は、「潜函作業」という潜水夫と同じ高気圧作業が可能か検査をして、4気圧のケーソン内部地下40mに入り、支持力検査等を行います。

調節池は盛土構造にしたため、洪水時には交通止めを余儀なくされ、利用者に大きな不便を掛けていました。県・国と協議を繰り返した結果、調節池内盛土部を高架化することに。建設大臣に事業変更許可申請を提出し、平成7年から平成14年まで、交通止めをせず、迂回路をそれぞれ千葉県・茨城県調節池に設置する事で交通路を確保、高架化を無事完了できました。

こうして全長2・4㎞という長大橋が利根川に出現し、償還金を残さず30年で無料解放できたのは、この路線の経済効果のおかげであるとされ、有料道路制度を上手に活用した事例となりました。国道294号から柏市の接続部まで5・4㎞を、監督員として開通式まで参加・経験できたことで、私の中に大きな使命感・責任感が生まれました。

最後に下総利根大橋有料道路は、岩井市と関宿町を結ぶ1100mの長大橋を含む延長3・1㎞の路線で、利根川上流に架かる境大橋、下流の芽吹大橋のちょうど真ん中の地点に計画され、国道16号と最短で結ぶ有料道路となります。利根川本流部は新大利根橋と同じ構造にしました。この頃にはテレビカメラがケーソン内部に設置され、監督員はモニターで指示が出来るようになりました。

千葉側の取付道路は約1㎞で、工事監督、用地交渉などを勘案し、関宿町に建設事務所を開設することになりました。約半年で必要用地の契約調印が済み、工事も計画通り5年で完了。無事に開通式を迎えることが出来ました。

令和2年1月、30年の努めを終え、下総利根大橋有料道路は県に移管されました。地域の重要路線として、地域住民からも「無料で便利な道路になった」と喜ばれております。工務課長としての初仕事で、関宿町・岩井市の皆さん・農地部の皆さんには、大変お世話になりました。この時、用地取得をいかに早くまとめるかが工事進捗の鍵となることを学ばせていただいたのです。

（島津就子）

豊島　信拓（とよしま　のぶひろ）
1947年11月10日生まれ。76歳。72年、茨城県道路公社に入社し、工務部調査課（技師）に配属。その後、表筑波スカイライン建設事務所の工務課技師、下総利根大橋有料道路建設事務所の工務課長、常陸那珂有料道路建設事務所長、工務部長を経て、2007年5月に定年を迎え、引き続き道路公社の理事・顧問に就任し、10年に退任。

霞ヶ浦大橋 公社の底力で早期完成

平成12年、私が道路建設課の技術総括の時に、霞ヶ浦自転車道延長約40㎞を補助採択いただきました。堤防を利用しての自転車道です。何度も現場に行き、細かく打ち合わせをしたことを覚えております。霞ヶ浦は、日本で2番目の面積を誇る淡水湖です。淡水魚類がたくさん生息しており、150種類もの野鳥が飛来するため、自然観察にはぴったりな場所とのこと。本当に、素晴らしい湖だと思っております。（弊社HPトピックスに掲載）

国道354号は、群馬県高崎市を起点とし、埼玉県加須市を経て古河市に入り、境町、坂東市、常総市を通り、つくば市、土浦市、かすみがうら市、行方市を経て、鉾田市の国道51号交差点に至ります。総延長約197㎞（うち茨城県分約120㎞）の、北関東を東西に結ぶ重要な幹線道路です。

茨城県では、国道昇格前から重点的に整備を進めてきた路線です。常磐自動車道から西側では、圏央道を補完する道路として、各所で現道拡幅やバイパス工事が進められています。

私もこの路線には色々関わっておりまして、科学万博の時に谷和原インターからの誘導路として急ピッチで整備を進めたことや、埼玉県境の渡良瀬川に架かる新三国橋の開通式では、茨城県の事務局代表として苦労して取り仕切ったことなどを懐かしく覚えております。また、北浦に架かる老朽化した鹿行大橋の架け替えを、色々とコスト縮減を図りながらやっとの思いで事業化したことも忘れられません。

このようななか、この路線で特に大きな役割を果たしたのが、霞ヶ浦大橋だったと思います。霞ヶ浦の西浦に初めて架かった橋であり、今でも唯一の橋です。

霞ヶ浦（西浦）は湖面積約170㎢、湖周約120㎞で、琵琶湖に次いで日本第2位の面積を有する湖です。この湖を横断する県道土浦大洋線は、県南横断道路という幹線道路に位置づけされていましたが、これまでは渡船（人、自転車のみ）に頼っている状況でした。

架橋構想が打ち出されたのは、昭和53年（1978年）。地元要望が非常に強かったのです。諸々の調整を行い、架橋ルートが示されたのは昭和56年（1981年）でした。そして翌年、昭和57年（1982年）、茨城県道路公社が一般有料道路事業として施工することになりました。通常の整備事業では事業化が非常に難しかったことから、道路公社の活用により事業着手にこぎつけたのです。

▲霞ヶ浦大橋は平成17年には無料開放されている

橋長1015・6m、幅員10・5mの長大橋です。上部工は、経済性を考慮し、鋼連続鈑桁が採用されました。下部工は仮締切工が不要なPCウェル基礎15基、鋼管矢板井筒基礎12基により、大幅に工期短縮を図ったのです。

当時私は、道路公社の主管課の道路建設課におり、この橋の取付道のため、国有地の払い下げに苦労しておりました。その後、この霞ヶ浦大橋は昭和62年3月に完成しました。橋梁工事約2年で供用開始させたのです。まさに、道路公社の底力です。

この橋は非常に利便性が良く、人気が高かったので、予想よりも交通量がのびました。そのため、有料期限を待たず、平成17年（2005年）に無料開放されたのです。

道路公社は、昭和46年（1971年）に設立されました。最初に手掛けたのは水郷有料道路です。鹿島臨海工業地帯と潮来市、行方市、県南および首都圏方面を最短で結ぶ、延長9・3㎞の産業道路であり、東関東自動車道潮来インターに直結しております。すでに無料開放されており、主要地方道水戸神栖線の一部となっております。

そのほかに、道路公社は新利根有料道路や下総利根大橋なども手掛けており、いずれも無料開放しております。

通常ではなかなか着手できないものを、有料道路事業を活用することにより大幅に早く供用開始できるのです。

（次回に続く）

研究学園にテナントビル
高田工務店が施工、8月引渡
一誠商事㈱／安全祈願祭

一誠商事㈱（つくば市竹園2−2−4、五十嵐徹代表取締役）がつくば市研究学園にテナントビルを新築する。施工は㈱高田工務店で、設計は㈱SOE建築設計事務所。引き渡し予定日は2024年8月31日。1日に安全祈願祭が挙行された。

現在の研究学園支店が手狭となったため、新たな建屋を建設する。1階を一誠商事㈱の新たな研究学園支店として、2階を貸店舗とする計画。竣工後、現在の支店は別の形で活用することなどを検討している。

工事場所はつくば市研究学園1−2−3、−4、−5、−6で敷地面積は2102・92㎡。

建物の構造はS造2階建て。建築面積は398・07㎡、延べ床面積は776・74㎡。

本体工事は㈱高田工務店、電気工事は㈲勝永電気、設備は㈱アカオギ、外構工事は㈱飯塚造園、清掃は㈱ホワイト、廃棄物処理は㈱東栄商事がそれぞれ担当。

安全祈願祭では鎌入を㈱SOE建築設計事務所の副厳宏代表取締役が、鍬入を一誠商事㈱の五十嵐代表取締役が、鎌入を㈱高田工務店の高田稔美代表取締役専務が執り行った。

五十嵐代表取締役は同施設の強みとして60台程度の駐車スペースを確保していることを挙げ「駐車場が確保できないと茨城県では営業活動が難しい。建物の高さを抑えて駐車スペースの確保を優先した」と説明。SOE建築設計事務所の副厳宏代表取締役が、鍬入を一誠商事㈱の五十嵐代表取締役が、鎌入を㈱高田工務店の高田稔美代表取締役専務が執り行った。

五十嵐代表取締役は同施設の強みとして60台程度の駐車スペースを確保していることを挙げ「駐車場が確保できないと茨城県では営業活動が難しい。建物の高さを抑えて駐車スペースの確保を優先した」と説明。また施工を担当する㈱高田工務店については「みどりの駅前のウィングマルシェで施工を担当していただいた際、大変良いものをつくっていただいた。今回も信用している」と信頼を寄せた。

㈱高田工務店の高田専務は「つくば市の中心部なので良くも悪くも目立つ場所。安全面に気を配りながら施工したい」と話した。

▲神事を終えて記念撮影を行った

花山体育館を耐震補強
事業費3919万で新年度発注
城里町

城里町は、新年度に花山体育館（塩子2622）の耐震補強工事を実施する。当初予算案には花山体育館耐震補強事業に3919万3000円を計上。可決され次第、工事の発注準備を進めていく。

花山体育館は1979年、町民の健康増進などを図るために建設された。建物の規模は、RC造2階建て640㎡。築後約45年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。

2021年度に耐震診断を実施したところ、必要な耐震性能が確保されていないことが判明。このため、22年度に耐震補強改修工事に係る実施設計を㈱エイプラス・デザイン（水戸市）へ委託した。

新年度は耐震化工事および工事監理を実施する。事業費の内訳は、工事請負費が3714万7000円、委託料が204万6000円。

住宅跡地へ公園整備
新年度に実施設計着手
北茨城市

北茨城市は、石岡雇用促進住宅（中郷町石岡110−16）1号棟を解体し、その跡地に公園を整備することを計画している。2024年度は、住宅の解体・公園整備に係る実施設計等を行う見込み。24年度当初予算では、事業費として904万2000円を計上している。

石岡雇用促進住宅1号棟については現在使われていないため、建物を解体する。跡地を活用して新たに公園を整備するという。具体的な整備スケジュールについては、現時点では未定とのこと。

雇用促進住宅1号棟につい てはRC造5階建て、延べ床面積は約2470㎡。

神栖で事務所増築
施工は幸武建設が担当
鹿島港湾運送

鹿島港湾運送㈱（神栖市居切660−4）は神栖市で事務所の増築工事を進めている。施工は幸武建設㈱が担当。完成予定日は6月30日。

工事場所は神栖市奥野谷字根岸2090−2の一部。市道8−1759号線、8−1760号線沿い。

建物の構造はS造4階建て。建築面積は647・3㎡、延べ床面積は1715・6㎡。設計は一級建築士事務所三好設計が策定した。

営業所を新築へ
染谷が設計施工
㈱電動舎（神奈川県横浜市）は鹿嶋市泉川に営業所を新築する。延べ床面積は754・54㎡。施工は㈱染谷工務店。設計は同社設計部。完成予定日は3月31日。

工事場所は鹿嶋市泉川159−7ほかで敷地面積は4010・52㎡。鹿島リサイクルセンターそば。

建物の規模は作業所が680㎡、事務所が68・57㎡、少量危険物倉庫が5・97㎡。そのほか敷地内には駐車場や洗車場を設ける。